

ほんたいせいしんせん 本態性振戦

原因

- ・「本態性」とは「原因不明」と言う意味の医学用語です。はっきりした原因は不明です。

症状

- ・ものを持つときに細かく速い、手のふるえがおこります。緊張するとつよくなります。
- ・首を左右に振るようなふるえや、声のふるえがおこる方もいます。
- ・偶然発症する場合と、遺伝性の場合があります。遺伝性の場合には 20-50 歳で発症しますが、偶発性の場合にはやや遅く 40~60 歳で発症します。

似たような症状をおこす病気

- ・**甲状腺機能亢進症**(動悸、大汗などをおこすホルモンの病気)は**血液検査**で診断します。
- ・**パーキンソン病**は動作緩慢などふるえ以外の症状があり、**DAT SPECT**でも診断できます。

治療法

1. 降圧剤(アロチノール、プロプラノロール)

- ・交感神経(注)のはたらきを阻害する高血圧の薬が有効です(立ちくらみ、喘息発作、気分がおちこみなどの副反応に注意)。

2. 抗てんかん薬(クロナゼパム、ジアゼパム、プリミドン)

- ・てんかん(注)の薬も有効です(眠気、ふらつき、肝機能障害などの副反応に注意)。

3. 定位脳手術

- ・内服薬が効かない方には脳の一部を超音波で破壊する手術(経頭蓋収束超音波治療)を行うことがあります(近くでは湘南藤沢徳洲会病院、新百合ヶ丘総合病院などで実施しています)。
- ・外科手術(視床中間腹側核破壊術)や、脳内に電極を埋め込む手術(深部脳刺激療法)を行う方もいます。

さいごにひとこと

- ・病状があまり進行しない病気ですが、根治療法はまだありません。
- ・まずは人前に出るときや、冠婚葬祭の記帳のときなどにお薬を試してみたいかどうか。

注

- 交感神経**; 緊張したときにはたらく自律神経で、血圧を上げたり、脈拍数をあげたりします。
てんかん; けいれんや意識障害などをおこす脳の病気です。

みやさきクリニック 宮崎秀健